

学校教育目標			夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成				経営理念				〇小中一貫教育校として、学校、家庭、地域が相互に連携協力の理念に基づき、「協調」と「信頼」で結ばれる教育環境を実現し、児童生徒の“育ちと学び”を支援していく。 ～児童生徒に軸足を据えた教育活動の展開～			
評価計画							自己評価				改善方策		学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方策	評価	コメント
							10月	2月						
確かな学力（学習活動）	1	・学びに向かう力を整え、育てたい資質能力“推論する力”の育成を図る。 《重点》 地域伝統文化再生プロジェクト(小) 《新規》 単元末試験の導入(中)	・小中一貫・接続教育を推進し、児童生徒が安心して学習できる教育環境を整える。	・理科、英語、音楽、保健体育の準教科担任制の導入と総合的な学習の時間でのTTを実施する。	・児童アンケート(授業満足度調査)を実施し、児童の満足度の割合を85%以上にする。	85%	小84.0%		小99%	3	・専門性や系統性を見据えた指導を行うことで、授業の満足度が上がっている。 ・児童を多面的に見ることができ、生徒指導面でも小中接続の面でも効果的に指導することができた。	・TTで実施するなど、中学校教員の授業準備の負担感を軽減について考えていく必要がある。	B A:1 B:8 C:1	・先生方の指導面での効果が出ていることは良いが、負担感の軽減も必要である。 ・小学校のうちから、専門性の高い先生の授業を受けられるのはありがたい。 ・TTを効果的に進めるためには計画性が重要となると思うが、このための時間確保を考える必要がある。
			・学びを支える力として、基礎的・基本的学力の定着を図る。	・授業や家庭学習の充実を図り、学力向上の取組を行う。	・家庭学習習慣の定着70%以上にする。 ・CRT(算数)、習熟度テストにおいて、学校設定スコアを超える割合を70%以上にする。	70%	小88.0% 中73.8%		小125% 中105%	4	・家庭学習が生活の一部として定着している一方、一人では家庭学習をできにくい児童もいる。(小) ・単元末試験に向けて、フォーサイト手帳を活用して計画的に学習に取り組むようになっている。(中)	・通信等を通して、家庭学習に関する保護者への啓発を行う。 ・児童生徒の実態に応じた授業を継続し、着実な学力定着を図る。	B A:2 B:5 C:2 N:1	・家庭学習の定着はなかなか難しい。
			・学力向上のためのICT活用の推進を図る。	・ICT機器の利点を生かした活用をする。			小94.0% 中97.0%		小134% 中139%	4	・ICT活用によって、多様な考えに触れたり協力的に活動したりすることに良さを感じている。(小) ・授業や家庭学習でICTを活用する頻度や方法が改善したことによって、学習に役立つと感じる生徒が増えた。(中)	・引き続き、各教科の資質・能力の育成につながる効果的なICT活用を探索。	B A:3 B:5 C:1 N:1	・ICT機器を使用した結果としてのメリット・デメリット等の共有を進めたい。 ・小学校のうちから、ICT機器に触れること自体がよいと思う。
			・eSTEAM教育を推進し、児童生徒の「推論する力」を育成する。	・総合的な学習の時間を中心に発達段階に応じて、系統的かつ計画的にeSTEAM教育を推進する。	・一人一本eSTEAM教育を取り入れた授業を実施する。	85%	小中115%		小中135%	4	・上半期予定の研究授業7回中、総合的な学習の時間(4)、算数・数学科(2)、理科(2)で、eSTEAM教育を意識した探究的な学びに係る研究授業を行い、授業改善が続いている。 ・推論する力を発揮する場面を意識した単元づくりを積み重ねている。	・地域に愛着を持ち、貢献したいという意識を高められるような単元開発を行う。 ・各教科の中でもeSTEAM教育を意識した授業づくりを行う。	B A:4 B:4 N:2	・児童生徒に「推論する力」が付いてきているかどうかを検証する必要がある。 ・eSTEAM教育がどのようなものか、保護者や地域には分かりにくいのではないかと、総合的な学習の時間の報告と生徒の発表の様子から、eSTEAM教育の進め方や児童生徒がいるような視点から分析している様子がよく分かった。
豊かな（心・生・健指や導）かな体	2	・自立・自律し、自他のことを大切にし、自己の健康と体力について理解し、高めたいこうとする児童生徒を育成する。 《重点》 部活動の地域展開 * 東広島市教育委員会モデル事業 《新規》 小中合同スポーツ大会の実施	・児童生徒の自己有用感を高め、アイデンティティの確立を図る。	・児童会や生徒会活動をはじめ、部活動、クラブ活動、委員会活動等を通じて、児童生徒の主体性と自発性を育てる。	・児童生徒質問紙「集団(学校、学級、部活動、地域など)のために自分の力を使ったり、人と協力したりして取り組んだ」と答える児童生徒の割合を85%以上にする。	85%	小87.0% 中98.0%		小102% 中115%	4	・児童会や学級活動の充実を図ることによって集団への貢献や協力に関する意識を高めた。(小) ・行事や部活動を通してだけでなく、総合的な学習の時間において、地域とのつながり意識した単元づくりと授業展開によって、生徒の意識が高まってきた(中)	・引き続き、児童会・生徒会活動や学級活動を行う際に、児童生徒が主体となる自治的・自発的な活動になるようにする。	B A:4 B:4 C:1 N:1	・役割をもつ児童生徒だけではなく、すべての児童生徒が主体的に動くようになること、 ・家庭でも主体的に動くためにどのような声掛けをすればよいのか、トライ&エラーを繰り返してほしい。
			・食や健康について考えるとともに、自己の体力の向上に主体的に取り組んでいく児童生徒を育成する。	・児童生徒自らが目標を立てて健やかな体づくりに取り組む。 *小中合同行事の設定など	・体育、学校行事、部活動を行う際に目標を設定し、「体力向上に取り組むことができた」と答える児童・生徒の割合を85%以上にする。	85%	小86.4% 中91.0%		小102% 中107%	4	・体育の授業においてICTを活用し、自分を客観的に見て、改善につなげる授業づくりを行った。 ・行事(小中合同スポーツ大会、クラスマッチ)や部活動に目標を持って取り組ませるとともに、振り返りの充実を図った。	・引き続き、児童生徒自身が目標をもって取り組んだり振り返りたりすることを通して、体力向上への意識を高める。	B A:3 B:7	・小中合同スポーツ大会を開催したことは大変有意義であったと思う。 ・児童生徒が現状に対して低めの目標設定にならないようにしてほしい。 ・運動が習慣になるようにしてほしい。
			・児童生徒が安全で安心できる教育環境を整える。 * 生城山(おおぎやま)ルーム開設(不登校児童生徒への対応)	・スクールカウンセラーや心のサポーター等と連携を図ったり、SSRを運営したりする。	・児童生徒質問紙「安心・安全に学校生活をおくることができている」と答える児童生徒の割合を85%以上にする。	85%	小84.1% 中99.0%		小99% 中116%	3	・生城山ルームの運営方法を整理し、生徒に広報するとともに、毎週SC・SSWとの連携を重ねている。 ・SCIによる生徒理解研修、気になる生徒の情報を密に共有することによって、生徒理解を重視した指導を実施している。	・引き続き生徒理解に基づいた指導を継続する。 ・小中や関係機関との連携の充実を図る。	B B:8 N:2	・生城山ルームの運営について教職員で共通理解し、「居場所」としての役割にとどまらず、児童生徒が「成長する場」となるようにしてほしい。 ・児童生徒が「利用しやすい場」として知ってほしい。 ・児童生徒の改善状況を教えてほしい。
			・コミュニティスクールの体制のもとに、地域連携を推進する。	・コミュニティルームを拠点とした地域人材との連携や活動を実施する。	・コミュニティスクール推進委員と地域学校協働活動推進委員との連携を毎月1回行う。	85%	小中100%		小中118%	4	・OS推進員と地域学校協働推進員と連携(上半期予定5回)し、地域で子供たちに対する活動をする方を集めて、「志和来未来会議」を行った。「地域の人材や施設を積極的に活用し、OSとしての特徴を出している」に対する肯定的回答をした保護者は小72.0%、中77.5%である。	・地域人材や地域で行われている活動を整理しながら、体制づくりを進める。	B A:3 B:6 N:1	・連携によってよかったことや学んだことの報告をしてほしい。
信頼される学校	3	・地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。	・学校HPや学校だより等による情報発信を定期的に行う。	・学校の取組や児童生徒の躍動的・活動的な様子を広く発信する。	・学校だよりを毎月発行するとともに、学校HPも随時更新する。	85%	小中100%		小中118%	4	・毎月発行の学校だより(上半期予定5回)や学年通信、HPなどを活用し、随時情報発信している。 ・各行事や活動の目的(ねらい)や児童生徒の取組の様子や感想を伝えるようにしている。	・引き続き情報発信を行う。保護者への通信をカラーにしていきたいという要望があり、予算面も含めて検討課題となっている。	A A:6 B:4	・カラー印刷ではなく、HP等OLでの対応でよい。 ・学校通信等を毎月楽しみにしている。
			・働きやすい環境づくりを推進し、教職員の健康促進を図る。 ・働きがい、やりがい等の意識の醸成を図る。	・小中一貫校としての校務運営組織の見直しと精選を図る。 ・地域の協力体制ネットワークの構築を図る。	・学校衛生委員会において、入退校記録等に基づいた分析を毎月1回行う。	70%	小中100%		小中143%	4	・小中合同での研修やスポーツ大会等を実施したことに加え、学校の教育活動にPTAや地域の方々の協力を得て、充実した取組にすることができた。 ・毎月1回学校衛生委員会(上半期の予定6回)を開いて分析を行っている。小中ともに、7・8月は超過勤務時間の月平均45時間以内であった。(4～9月期の平均超過勤務時間は、小41:24、中45:53)	・行事等への協力・支援を引き続きお願いしたい。 ・主任層の負担が大きいため、早めの計画・連携・分担を行う。	B A:3 B:6 C:1	・月平均45時間は多い(平均であれば20時間くらいが適切)のではないかと。PTAとして協力できることはないか。 ・毎月通学路の除雪作業をしている。地域としてできることはやっていると、協力してほしいことがあれば、速直な返で伝えてほしい。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...100%以上 3...90～99%達成 2...80～89%達成 1...79%以下■学校関係者評価
A...とても適切である B...概ね適切である C...あまり適切でない D...全く適切でない (N...判定できない)